

し ょ う わ つ う し ん

Show-a 通信

2012.6
第7号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています。

医療法人彰和会の「彰和 (Showa)」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

最新超音波診断装置を使った ラジオ波凝固療法

町田 卓郎 医長



超音波診断装置「LOGIQ E9」(写真右)

当院が2010年9月に導入した最新の超音波診断装置「LOGIQ E9」は、事前に取り込んだCTやMRIの画像と超音波画像を同期させて、リアルタイムで見せるシステム「V-Navigation system (V-Navi)」を搭載しています。超音波画像では見づらかった病変もCTやMRIの鮮明な画像を参照しながら正確な位置を把握できるため、より安全で正確な治療を行うことが可能となりました。

ラジオ波発生装置 (写真左)

装置に接続した穿刺電極針を体表から肝臓のがん細胞内部に挿入し、強力なラジオ波(熱)を放出させて、がん細胞を壊死させます。

消化器 Frontier



治療が難しかった
場所の肝臓がんを
切らずに壊死させる



最新超音波診断装置 を使った ラジオ波凝固療法

肝臓がんは、発生した場所によっては治療が難しいケースがありました。当院では2010年9月からCTやMRI画像と超音波（エコー）画像を同期させることができる最新超音波診断装置「LOGIQUE」を使用し、肝臓がんやその周辺の血管や臓器の位置を正確に把握することで、より安全な治療を実現しています。

がん組織を熱で焼く ラジオ波凝固療法

ラジオ波凝固療法は超音波診断装置で患者を観察しながら、がん細胞に直径1・5mmほどの電極針を挿入して焼き、壊死させる治療法です。開腹せずに、体表から直接電極針を刺して治療するので、治療後の回復も早く、患者さんの負担が少ないことから、近年の肝臓がん治療の主流になっています。

メリット

- 外科手術と違い、身体を切らずに治療できる
- がん細胞を直接焼くので、1回の治療での効果が高い
- 身体への負担が小さく、短期間の入院（約1週間）で済む
- 化学療法や動脈塞栓術などの併用ができる

当院では、肝臓にできた直径3cmまでのがん3個以内を基準に、ラジオ波凝固療法を実施し、良好な治療結果を得ています。肝機能の状態が良ければ、この基準を超えていても治療が可能です。痛み止め効果のある睡眠薬を使って行う治療法なので、外科手術ができない患者さんにも適応できます。

外科手術の入院期間は1カ月ほどですが、ラジオ波凝固療法での治療の入院期間は1週間ほどと短期間です。

最新の超音波診断装置で より安全な治療が実現

超音波診断装置の画像を見ながら行うラジオ波凝固療法は、肺の空気や肋骨の陰になると超音波画像が不鮮明になるため、以前は「夜道に地図を持たずに目的地を探す」ような状態での難しい治療でした。肝臓に発生したがんが、大血管や胆管などに囲まれた難しい位置にできていた場合には、治療によって血管を傷つける可能性があることから、治療を断念せざるを得ないことがありました。

しかし、全国でもいち早く導入した最新

の超音波診断装置「LOGIQ E9」を使用することで、「日中に地図を見ながら目的地を探す」ように、ラジオ波凝固療法の安全性が飛躍的に高まりました。

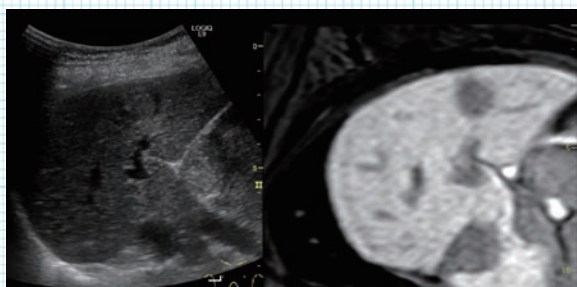
超音波診断装置「LOGIQ E9」には、CTやMRIと同期させて見せるシステム「V-Navigation system (V-Nav)」が搭載されているため、事前に撮影しておいたCTやMRIを使った鮮明な画像と治療中の超音波画像を同期させることができます。両画像を同時に確認できることで、血管や神経、近くにある臓器などの障害物を避ける「安全なルート」で、がん細胞まで安全に確実に電極針を挿入することが可能になりました。

肝臓がんは 経過観察が大切

がんの性質によっては、足の付け根の動脈からカテーテル（チューブ）を肝臓まで挿入する肝動脈塞栓術や肝動注化学療法を併用し、より高い治療効果を目指します。

しかし、肝臓がんは多発する性質があり、いったん壊死させても再発しやすいことから、治療後の経過観察が大切になります。

最新超音波診断装置 「LOGIQ E9」の画像

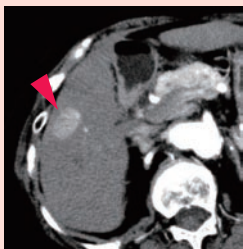


超音波画像

CT画像

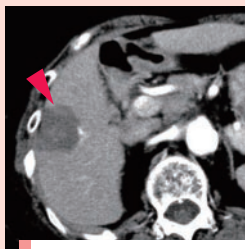
リアルタイムの超音波画像と、がん細胞や周辺の血管・臓器の位置を正確に確認できるCT画像（静止画）を組み合わせることで、より安全にラジオ波凝固療法を行うことができるようになりました

ラジオ波凝固療法・治療前後



治療前のCT画像

直径25mmの肝がんが
確認できる



治療1週間後の
CT画像

がん細胞よりもひとまわり
大きい熱凝固壊死部分が
出現している

最新の

超音波診断装置を

使用した

ラジオ波凝固療法のメリット

- CTやMRI画像を組み合わせたことができるので、腫瘍の位置が明確になる
- 超音波では見えない場所でも、正確に電極針を進めることができる
- 死角が少ないため、「治療が難しい」とされた場所の治療ができる

消化器内科 町田 卓郎 医長

札幌医科大学卒業
新日鐵室蘭総合病院消化器科、清田病院消化器科、時計台病院消化器科、町立長沼病院内科を経て、2004年11月から北海道消化器科病院消化器内科

【専門医・認定医】

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器内視鏡学会指導医
日本内科学会認定医
日本肝臓学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医療技術を向上させるため、職員全員がつねに学び続けています

2/15

緩和ケア講演会

◆特別講演

「がん疼痛治療の基本と最前線」

演者：公益財団法人がん研有明病院
麻酔科・ペインクリニック
医長 服部政治先生



3/23 北海道医師会認定生涯教育講座

第2回札幌緩和ケア懇話会

◆特別講演

「患者の声に耳を傾けよう」

演者：高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター
緩和ケア内科
科長 原一平先生

3/9 北海道医師会認定生涯教育講座

北海道肝がん分子標的薬研究会

◆特別講演

「肝動脈塞栓療法の現状と限界」

演者：福井県済生会病院
中央放射線診断部長・放射線科主任部長
宮山士朗先生



4/6 北海道医師会認定生涯教育講座

北海道消化器がん治療講演会

◆特別講演

「膵臓癌の化学療法について」

演者：国立がん研究センター中央病院
肝胆膵腫瘍科・肝胆膵内科
副科長 奥坂拓志先生



部門紹介

化学療法室



化学療法室



テレビ付き
リクライニングチェア



仮眠ができるベッド



松永かおり看護師



患者情報シート

外来看護師 22人
薬剤師 2人

外来で、安心・安全な化学療法を実施

抗がん剤の副作用軽減や管理技術の進歩などによって、外来での化学療法が増えてきています。

当院では、患者さんが社会生活を継続させながら、快適な環境で安全に化学療法を受けられるように、化学療法室を設置。ひと月の延べ人数で120人前後の患者さんが、外来診療で抗がん剤治療を受けています。

室内にはベッド4床とテレビ付きのリクライニングチェア2台があり、外来看護師が、抗がん剤治療に関して経験豊富な医師や薬剤師と連携しながら支援しています。室内には数人の看護師が常駐し、治療中の患者さんに体調の変化がないかを観察するなど、患者さんに安心いただける体制を常に整えています。

ています。患者さんの病状に応じて担当看護師が付きますが、全看護師が化学療法を受ける患者さんの治療内容や経過を「患者情報シート」で把握しています。

松永看護師は、「外来化学療法を受ける患者さんには、自己管理していただく必要があります。入院治療と比べて不安を感じることがあるかもしれません。小さな不安でも気軽に相談ください」と話しています。

退院後に化学療法を受ける患者さんには、入院中に外来看護師が「外来での治療の流れ」について説明し、不安を和らげ、スムーズな外来治療へとつなげていきます。現在、室内拡張工事予定で、今秋には完成の見込みです。



医療法人 彰和会
北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、消化器外科、外科、肛門外科、
放射線科、麻酔科、病理診断科

□設立：1988年2月20日
□住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
□電話：011-784-1811 □FAX：011-784-1838
□ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
□病床数：211床